

interview

歴史は今の暮らしの延長線上にある

岡崎古墳群は古墳と地下式横穴墓の関係を考えるうえで非常に重要な遺跡です。戦前から古墳群と地下式横穴墓の存在は知られていました。九州南部では長い間「古墳は近畿から徐々に広がったもので、地下式横穴墓は辺境の隼人の墓の形式である」との考えが広まっていましたが、この古墳群の調査によってその認識は改められました。そもそも大隅半島では、古墳時代の早い時代から古墳ができています。さらに、平成14年から4回行った発掘調査の結果、近畿由来の土師器や流通

量の少ない初期須恵器が見つかったことから、岡崎古墳群は近畿や朝鮮半島などの広い交易ネットワークの中で作られた古墳で、地下式横穴墓は古墳と一体化している形で作られていたことが分かりました。歴史は教科書に書いてあるものだけではなく、身近で生活の延長線上にあるもの。地元の歴史に触れることは、現在まで受け継がれている地域性や特色を知ることであります。ぜひ古墳に触れて「最南端の地域の古墳の価値」を多くの人たちに知っていただきたいです。



鹿児島大学総合研究博物館
橋本 達也 教授



岡崎古墳群 Okazaki Tumuli

鹿児島県指定史跡

- 年代 古墳時代中期（5世紀）
- 場所 串良町岡崎
- 出土品 石棺、赤色顔料、祭祀土器（須恵器・土師器）、鉄剣等の鉄製品、イモガイ製腕輪 等
- 特徴 古墳と一体で地下式横穴墓群が存在。中位階層の首長墓と考えられる。



岡崎 15号墳
勾玉と管玉（古墳時代）
串良ふれあいセンター所蔵

文化財を知り、守る
ロマンに思いを寄せて

私たちが住んでいる地域の歴史は、身近であるがゆえに知っているようで知らないことがたくさんあります。鹿屋市には旧石器時代から人々が暮らしてきた痕跡がたくさん残されています。紹介した遺跡の様々な発見や、これからなされる研究は、太古の鹿屋市の歴史を新たに創造していくことに他なりません。地域の歴史を学ぶことは、新しく地域の良さを発見していくことでもあります。その発見は、鹿屋に暮らすあなたの人生をきつと豊かにしてくれるでしょう。

「太古のロマンを巡る旅」が、皆さんに鹿屋の歴史への関心を持ってもらう一助になることを祈って。

遺跡が伝えるもの

現在、発掘と検証作業が進んでいる名主原遺跡と岡崎古墳群。遺跡の調査に関わった人たちに、話を聞きました。



中尾地下式横穴墓群
6号出土遺物（鉄製品）
串良ふれあいセンター所蔵

interview

多くの遺構が発見
名主原遺跡は県道の工事に伴って令和4年から発掘調査が行っています。調査の結果、名主原遺跡では直径約20mの周溝の中心に方形の土坑が見つかりました。また、土器や石包丁などが8万点以上出土しており、住居と考えられる遺構が何層にも重なって見つかっているため、かなり大規模で、かつ長期間存在していた集落であることが分かりました。これは弥生時代から古墳時代において、南九州でも最大クラスの集落跡になります。令和6年度は1,000㎡を調査します。今までに発掘された出土品の整理や年代測定を進めながら、名主原遺跡の調査を進めていきます。



鹿児島県教育庁文化財課
令和4～5年度調査担当
嶋島 えりな 文化財研究員



名主原遺跡 発掘作業員
岩見 千絵さん（左）
松元 美奈子さん（右）

地道な作業の中にある楽しさと喜び

今年度の名主原遺跡の調査は、5月13日から本格的に始まりました。今は発掘を進めていて、出土した遺物に番号を付けて振り分ける作業等を行っています。発掘作業は野外なので大変な作業ではありますが、掘り進めて珍しいものが出てきたときには、本当にわくわくします。この遺跡は遺物が多いので、宝探しの感覚で作業を楽しみたいと思います。

- 1 昨年度までの発掘場所。土を埋め戻し、保護しておく
- 2 今回の発掘場所。遺構が見つかった時の様子
- 3 作業中の様子。出土してくるものに注意しながら少しずつ削る



名主原遺跡 Myozubaru Ruins

- 年代 弥生時代～古墳時代
- 場所 吾平町下名
- 出土品 土器、鉄製品、住居跡、石包丁 等

